

「へそ」がご縁の友好都市「^{にしわき}兵庫県西脇市」



シンボルマーク
「へそどり」

友好都市協定締結のなれそめ

1978年（昭和53年）の北海へそ祭りにあわせて、西脇市の石野助役、岸本議長他市民代表一行がお見えになり、祭りの視察ではへそ踊りの輪の中にも加わっていただきました。その際に、「ぜひ北海道と日本の『へそ』が取り持つ縁で、両市の友好親善を結びたい」と申し入れがありました。

市は、同年9月の定例市議会で、「両市間に共通するシンボル『へそ』によって友好親善を深め、市民交流による地方都市の個性と魅力を広く内外にアピールしながら産業・教育・文化の交流をはかり、市政の発展を念じ友好親善都市を結ぶ」ことについて議決し、翌月20日、富良野市から滝口市長と高井議長が西脇市を訪れ、西脇市の勤労福祉センターで調印式が行われました。

西脇市ってどんなまち？

緑と清流に囲まれた自然豊かなまちです。「播州織」と「播州毛鉤」は、有名な工芸品として江戸時代からの歴史と伝統を誇り、地場産業として発展してきました。

東経135度・北緯35度の交差点があり、ここが「日本列島の中心」にあたることから、「日本のへそ」のまちとしてPR。「へその西脇・織物まつり（毎年8月）」や「西脇子午線マラソン大会（毎年12月）」などのイベントの開催、全国のへそ・中心を名乗る市町村で結成している「全国へそのまち協議会」での交流、さらに最近では、新たな特産品として「日本のへそゴマ」（金ゴマ）の栽培にチャレンジしています。

豊臣秀吉の天下統一を支えた稀代の軍師 黒田官兵衛の生地と伝えられる黒田庄町と2005年（平成17年）に合併しました。黒田庄町は、有名ロックバンド「ウルフルズ」のボーカル トータス松本さんの出身地でもあり、まちのPRに一役買っています。

全国高校駅伝大会で8回の全国優勝（最多）を果たしている西脇工業高校や、西脇市出身のプロボクサー 長谷川穂積さんをご存知の方は多いでしょう。

- ・人口 42,520人 16,715世帯（2015年1月1日現在）
- ・面積 132.44km²
- ・市長 片山 象三（かたやま しょうぞう）



富良野市との交流

「西脇子午線マラソン大会」には富良野市から市民ランナーを毎年派遣しています。また、友好都市周年記念行事や市民ツアーなどを定期的に企画して交流を深めており、市職員同士の交流も継続的に行われています。

最近では、富良野オムカレー推進協議会を中心とした新たな交流も始まり、イベントなどで富良野をPRしていただいています。



国登録有形文化財「旧来住家住宅」

大正7年に家業が糸商の来住梅吉（西脇商業銀行の創始者でもある）が建てた高級家屋。現在では入手不可能な最高級建材などが贅沢に使われ、釘を使わない非常に高度な建築技術が駆使されており、再建築は困難といわれる。



「日本へそ公園」

もともと東経135度と北緯35度の交差点にあった岡之山公園を拡張して「日本へそ公園」に改称。平成6年にGPS測定した地点（公園内）にモニュメントを建設。公園内の施設は芸術的で遊び心を追求したものが多い。



「播州織工房館」

木造の織物工場を改装し、平成19年にオープンした「のこぎり屋根」が特徴の施設。播州織の情報発信、オリジナルグッズの販売、播州織製品や機（はた）織り機などの展示をしている。



「岡之山美術館」

日本へそ公園内にある、西脇市出身の美術家 横尾忠則さんの作品の展示と保存を目的に建てられた美術館。3両連結の列車をイメージした外観。横尾さんの巨大壁画から鑑賞スタート。



北はりま農産物直売所 「北はりま旬菜館」

地産地消を推進し、農業を見直す取り組みの一環として平成23年にオープン。たくさんの生産者の顔写真を張り出すなど、安心安全をPR。富良野市の特産品コーナーが常設されている。



にしわき経緯度地球科学館 「テラ・ドーム」

日本へそ公園内にある、子どもが楽しめるように工夫を凝らした科学館。太陽と月をモチーフにしたユニークな外観の建物。国内最大級の反射望遠鏡があり、昼間でも星の観察ができる。

